

第3回

水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会

日時：平成30年11月28日（水）午後2時00分から

場所：熊本市動植物園 緑の相談所 2階会議室

次 第

1. 開会

2. 議題

（1）前回会議の振り返り

資料1

（2）今回の検討事項

資料2

（3）動植物園マスタープラン

資料3

（4）基本理念と基本方針

資料4

（5）施策事業（イメージ）

資料5

（6）今後のスケジュール

資料6

3. 閉会

（配布資料）

- ・ 配席図
- ・ 委員名簿
- ・ 資料1 前回会議の振り返り
- ・ 資料2 今回の検討事項
- ・ 資料3 動植物園マスタープラン
- ・ 資料4 基本理念と基本方針
- ・ 資料5－1 施策事業（イメージ）環境部会
- ・ 資料5－2 施策事業（イメージ）アクティビティ・マネジメント部会
- ・ 資料6 今後のスケジュール

【協議会・部会の要旨】

第1回 協議会（H30. 7. 4）

- ・ 外来種において、すでに増えたものの駆除も大切だが、今後新たに出さない、まだ話題になっていない生き物も逃がさないという部分がまだ弱い。
- ・ 江津湖に本来いる生き物を大事にし、その存在を多くの市民に知ってほしい。
- ・ 動物たちには必要ないものであるため、護岸工事や夜間照明を行うには、生物たちのことをよく理解した上で行うべきである。
- ・ シードバンク（埋土種子）を活用した河岸植生の復元も必要である。そういったものを発掘して、水辺の植物の再生ということを行うと、素晴らしいものになるのではないか。
- ・ レッドデータブックの該当種が江津湖には生息しているので、範囲を広げると、子ども達の環境学習の材料にもなるし、環境を守っているという大きなメッセージにもなる。
- ・ 江津湖の主役は「水」であり、生き物だけでなく、水も共に取り戻すような取組みがさらに強まったというような動きができればよい。そのためにも上流域から下流域までのつながりは大事である。
- ・ 外来種の駆除においては多くの市民と協力し、計画的にやる必要がある。
- ・ ゴミの問題に関しては、行政だけでは難しいものがあるので、地域と協力して取組まないといけない。
- ・ 水や自然環境の視点とともに文化的な視点が必要である。
- ・ 協議会の委員と行政だけではなく、その場所をよく理解していて、定期的に清掃活動なども取組んでいる地域の方々も参画して計画は策定していくべきである。
- ・ 江津湖の魅力を全国的に発信する気運が乏しい。
- ・ 短期・中期・長期の計画に対してどういうふうに戦略的にこの会を運用していくのかを明確に示すべきである。
- ・ 自治協議会、公園愛護会、関連団体と十分に協議をして進めていくことが大事である。
- ・ Park-PFI を取り入れるにあたっては、熊本市の景観計画やその他のルールに従って、作るという事をしっかりと位置づけることが重要である。

第1回 環境部会（H30. 7. 23）

- ・ まずは長期的な目標を固めて共有すべき。その上で、短期・中期の方策を考える必要がある。
- ・ 環境と文化は一つの塊。環境と文化のバランスを図っていく必要がある。
- ・ 江津湖の環境に関する基本情報が足りない。江津湖を保全する上で必要なものは今回を機に調査する必要がある。
- ・ 人間活動により自然が追いやられている。例えば、人間活動を受けやすいカヤネズミの活動範囲が狭まっているので、ヨシを復活させたり、自然ゾーンと人間ゾーンを分けたりして、自然と人間の共存を図るべき。
- ・ 江津湖で活動する誰が必要とする“水”を大事にすべき。
- ・ 緑化フェアでは、各団体において自然観察会を実施し、熊本の自然を知ってもらう契機にするといい。

第1回 アクティビティ・マネジメント部会（H30. 8. 6）

- ・アクティビティに関すること環境保全優先に考えていく必要がある。
- ・「今のままが一番よい」という意見も大事にする必要がある。
- ・余裕をもって維持できるような仕組みづくり（持続可能な維持管理システム）が求められている。
- ・江津湖に関わる方々の組織化、人材育成によって、大きな力が生まれるのではないか。
- ・マナー問題（飛び込み等）への対応が必要である。
- ・看板がない公園を目指すとか、今の技術等で公園を面白くしていく考え方もある。
- ・わかりやすい言葉で、魅力と改善するところを整理するなど、整理の仕方の工夫が必要である。

第2回 環境部会（H30. 8. 24）

- ・水環境の保全については、現在の取り組みの継続や発信をすることが重要である。
- ・江津湖の環境に関する調査が不足しているので、過年度のデータの集積・整理をした上で、必要な調査を行う必要がある。
- ・外来生物については、江津湖における調査結果をもとに、現況の把握や効果の検証を行わなければ駆除は難しいと思う。
- ・江津湖の歴史・文化と自然環境を融合させるようなものがあると、より魅力の発信につながると思う。
- ・江津湖に関する情報の集積や発信の場として、ビジターセンター（仮）の設置が望ましい。
- ・江津湖は、自然環境と人間活動が共存・共生している場所で、完全にゾーン分けすることは難しいので、環境に配慮すべきゾーンとして情報を提供することも大事。

第2回 アクティビティ・マネジメント部会（H30. 9. 25）

- ・江津湖の生き物を対象にした水族館を整備して、子ども達が江津湖を知るきっかけをつくってはどうか。
- ・江津湖を利用したスポーツイベント（マラソンや水上スポーツなど）や健康に関するイベントをしてはどうか。既存イベントのいくつかでも江津湖を会場にしたりすることもあるのではないかな。例えば、熊本城マラソンコースの一部にしてみてもどうか。
- ・ネーミングライツを行って、トイレをきれい（和式→洋式）に保つことがあってもいいと思う。
- ・江津湖で気軽に行うことができる運動をリスト化した“アクティビティリスト”のようなものを作成すると、江津湖の魅力発信につながるのではないかな。
- ・適正な管理を行うために、施設の集約や減築を考える必要があるのではないかな。
- ・“水”をアピール・発信する上では、マーケティングによるブランド化の視点が必要である。
- ・目指すべき方向性については、誰がどのような体制で行っていくのか、今後明確にしておく必要がある。
- ・プレイヤーが必要となる。例えば大学で会社をつくって、そこから民間に営業をかけていくような仕組み。

第3回 環境部会（H30. 9. 28）

- ・水環境については、流域のつながりも重要なのできちんと明記してほしい。
- ・自然と人とのバランスが重要。いかに共存・共生を図っていくかが大事。
- ・人が立ち入ることによって生物にどう影響するか明記してほしい。
- ・環境部会としては、生き物にとっても誇れる空間づくりを目指していきたい。
- ・目標に“歴史・文化”をきちんと明記し、文化的資源の活用策についても考えていきたい。

第2回 協議会（H30. 10. 10）

- ・外来種駆除のための防除計画をきちんと定める必要がある。
- ・江津湖にある句碑を観光に結びつけることはできないか。
- ・江津湖にある句碑と県立図書館を結びつけるようなルート（文学歴史ルート、学習ルート、環境ルートなど）をつくとよいのではないか。
- ・外来種駆除において各団体が取組んでいるものを取りまとめて一大イベントとしてやるとよいのではないか。
- ・外来魚に対する条例についての周知方法を考える必要がある。
- ・学校教育の中で子ども達に啓発をしたり、子ども達を主役にするような江津湖のキッズクラブみたいなものをつくり、観察会を地元の校区に根ざした小学校や中学校が組織だってやっていけるといいと思う。
- ・公園内でバーベキューなど火気使用が可能な場所を設けることができないか。
- ・専門職の方が実際に現場を見て、そこで意見を出した方がより具体的になるのではないか。
- ・水前寺地区から広木地区までの一体感を持たせるためのトータル的なデザイン計画が必要ではないか。
- ・外来魚駆除において優先順をつけて、種類を絞って対策を行うとよいのではないか。
- ・イベントガイドライン作成において、人数と頻度を目指すことはやめてほしい。生き物たちにも目を向けて作成をしてほしい。
- ・意見聴取を行うにあたり、“そのままでいい”“変えないでほしい”という意見も大事にしてほしい。

第3回 アクティビティ・マネジメント部会（H30. 10. 24）

- ・江津湖の魅力は“水”“生き物”という環境が根本であり、この部分に関しては環境部会で議論をしていただき、それをどうアクティビティ・マネジメント部会がサポートしていかるか、活動につなげていけるかということが大事になると思う。
- ・江津湖の遊歩道に距離の表示板を提示し、所々に筋トレやストレッチができる健康器具を設置すると、色々な健康プログラムを考えられるのではないか。
- ・環境あつての江津湖なので、カルテの作成においては環境部会ともしっかりと共有ができているものでないといけない。環境部会での意見を踏まえて作成した方がいいと思う。
- ・“水の聖地”“パワースポット”のようなところが江津湖にもあればいいと思う。
- ・江津湖の歴史文化について詳しく熱意のある方からガイド受けると、江津湖にもっと興味を持つ方が増えると思う。

- ・江津湖において早朝運動した後に、朝ごはんを食べられるところがほしい。

第4回 環境部会（H30. 11. 6）

- ・情報発信が各分野で出ているので、まとめるなり分けるなりきちんと整理した方がいい。
- ・生物多様性の保全において、外来種と希少種を含む在来種の対策は分けて考えるべき。
- ・江津湖の再整備で植樹する場合は、その樹種について十分検討してほしい。
- ・ビジターセンター（仮称）については、持たせる機能や体制等を十分考慮すべき。その上で、設置する場所や規模等について検討しなければならない。
- ・基本理念とは別に、市民に親しみやすいキャッチコピーがあるといいと思う。

第5回 環境部会（H30. 11. 19）

- ・全体的に表現を分かりやすくしてほしい。（レジリエント、上質など）
- ・基本理念については、両部会の意見を踏まえて考える。
- ・施策事業については、課題と目標を明確にして考えるべき。
- ・外来種駆除に向けては、ボランティアの人集めや処分費が課題。
- ・ビジターセンター（仮）として活用できそうな公共施設を教えてほしい。

第4回 アクティビティ・マネジメント部会（H30. 11. 21）

- ・一日で江津湖を周るのは難しい。リピーターの確保、ツーリズムの発想が必要。
- ・駐車場の有料化という考えは環境保全の観点からも必要。
- ・外来魚対策において、釣り人と協力できる施策が何か考えられないか。
- ・バーベキューを夜中に行う人がいる。禁止するよりもバーベキューができる場所を確保し、利用時間などルールを設定によって、そういったことも抑えることができると思う。
- ・民間活力の導入においては、できれば地元の資本に入ってもらおうとか、ここだけのお店ということにならないといけないと思う。
- ・江津湖周辺の店舗の方々からの意見も聞くことが必要。
- ・マーケティングによるブランド化という視点はあるが、施策事業が入っていない。
- ・各部会の施策事業の付き合い合わせが必要。